

問1 19世紀半ばにイギリスが清との間で南京条約を締結するに至った歴史的背景と、その内容についての説明として最も適切なものはどれですか。

(2019年 千葉県公立入試 類似)

1. イギリスによるアヘンの密輸に対し、清がこれを取り締まったことで戦争が始まり、講和条約によってイギリスは香港の領有と多額の賠償金を得た。
2. イギリスが茶の貿易を独占しようとしたことに清が反発して戦争が始まり、講和条約によってイギリスは清を保護国とし賠償金を免除した。
3. 清がイギリス領のインドへ侵攻したことで戦争が始まり、講和条約によってイギリスは北京に公使館を設置する権利と賠償金を得た。
4. 日本が清へ進出したことに危機感を覚えたイギリスが清を支援して戦争を終わらせ、講和条約によって租借地としての香港を獲得した。

問2 19世紀のイギリスにおいて、産業革命の進展にともない発生した社会状況の説明として、背景や因果関係が最も正しいものはどれですか。

(2025年 宮城県公立入試 類似)

1. 工場の機械化により生産力は飛躍的に向上したが、資本家と労働者の間に大きな格差が生じ、不衛生な住環境や児童労働が深刻な問題となった。
2. ルネサンスによる人間中心の考え方が普及した結果、労働者の権利が法律で即座に保護され、産業革命の初期から安定した生活が送られた。
3. 世界恐慌の影響で失業者が急増したため、労働者は政府主導の公共事業に従事することで、労働組合を解散して国家の近代化に協力した。
4. 宗教改革によって教会の権威が低下したことで、労働者は伝統的な生活習慣を捨て、都市部から農村部へと大規模な移住を開始した。

問3 1853年にペリー艦隊が来航した際、幕府に開国を迫ったアメリカ合衆国について、当時のこの国の歴史的状況を説明したものとして正しいものはどれですか。

(2015年 岡山公立入試 類似)

1. 国内で奴隷制の是非や貿易政策をめぐる対立が激化し、1860年代には南北戦争という大きな内戦が起こった。
2. 清との間でアヘン戦争を戦っており、アジアにおける市場の独占をめぐってイギリスと激しく競っていた。
3. ナポレオンによる大陸支配から脱した直後であり、モンロー教書を出してヨーロッパ諸国との相互不干渉を唱えていた。
4. 第一次世界大戦の敗戦による混乱の中にあり、世界で初めて社会権を認めたワイルドマン憲法の制定準備を進めていた。

問4 幕末から明治初期にかけての政治的変遷について述べた文として、歴史的な因果関係が正しいものはどれですか。

(2019年 愛媛公立入試 類似)

1. 薩英戦争を経て近代化の必要性を感じた薩摩藩は、土佐藩の坂本龍馬らの仲介により、長州藩と薩長同盟を結んだ。
2. 版籍奉還によって土地と人民を天皇に返上した直後に、江戸幕府を打倒するための薩長同盟が結成された。
3. 桜田門外の変が起きたことで、日米和親条約の締結をめぐる幕府内の対立がすべて解消された。
4. 鳥羽・伏見の戦いで旧幕府軍が勝利したため、新政府は各藩の領地を認める版籍奉還を中止した。

問5 1858年に調印された日米修好通商条約では、神奈川、長崎、新潟、兵庫などの開港が約束されました。しかし、幕府は兵庫の代わりに、隣接する神戸を実際に開港しました。当時の資料において、兵庫は多くの人々が住み賑わっていた一方、神戸は人家が少なく管理がしやすい場所であったことが示されています。幕府がこのように開港地を調整した主な理由として、最も適切な説明を選びなさい。

(2022年 栃木県公立入試 類似)

1. 外国人と日本人との不必要な接触や衝突を避け、管理を容易にするため
2. 神戸には既に最新の造船施設が整っており、貿易の拠点として最適だったため
3. 兵庫の住民たちが開港に強く反対し、幕府に対して大規模な一揆を起こしたため
4. 神戸の方が兵庫よりも水深が深く、大型の蒸気船が停泊するのに適していたため

問6 幕末の日本において、1861年以降にアメリカの入港船数が減少した一方で、開港から幕末期を通じて一貫して多くの船を日本へ送り込み、最大の貿易相手国となった国はどこですか。

(2020年 北海道公立入試 類似)

1. イギリス
2. アメリカ
3. フランス
4. ロシア

問7 1858年に日本とアメリカの間で結ばれた日米修好通商条約には、日本国内で罪を犯したアメリカ人をアメリカの領事が自国の法で裁くことを認め、さらに日本が輸入品に対して自由に関税をかける権利を認めないという内容が含まれていました。このような条約の内容を示す用語の組み合わせとして適切なものを選びなさい。

(2018年 三重公立入試 類似)

1. 領事裁判権の承認と、関税自主権の欠如
2. 領事裁判権の欠如と、関税自主権の承認
3. 裁判権の独立と、貿易の自由化
4. 司法権の確立と、保護貿易の推進

問8 日本の歴史における朝廷と武家政権との関係について述べた次の4つの事象を、時期の古い順に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。

- ・後鳥羽上皇による倒幕の動きが失敗した後に京都に設置された「六波羅探題」
- ・足利義満が三代将軍のときに行った「南北朝の合一」
- ・徳川幕府が天皇や公家の行動を制限するために定めた「禁中並公家諸法度」
- ・倒幕派が天皇中心の新政府の成立を宣言した「王政復古の大号令」

(2018年 富山県公立入試 類似)

1. 六波羅探題 → 南北朝の合一 → 禁中並公家諸法度 → 王政復古の大号令
2. 南北朝の合一 → 六波羅探題 → 王政復古の大号令 → 禁中並公家諸法度
3. 六波羅探題 → 禁中並公家諸法度 → 南北朝の合一 → 王政復古の大号令
4. 禁中並公家諸法度 → 南北朝の合一 → 六波羅探題 → 王政復古の大号令

問9 1862年、神奈川宿近くの生麦において、薩摩藩主の父である島津久光の行列を横切ったイギリス人を藩士が殺傷する「生麦事件」が発生しました。この事件の賠償を求めて翌年に鹿児島湾へ現れたイギリス艦隊と薩摩藩との間で起きた戦いと、その後の薩摩藩の動向について述べた文として、最も適切なものはどれですか。

(2017年 鳥取公立入試 類似)

1. 薩英戦争が発生したが、この戦いを通じて薩摩藩は武力による攘夷の困難さを痛感し、イギリスへの接近や軍制の近代化へと方針を転換した。
2. 下関戦争が発生したが、イギリス軍を退けた薩摩藩は自信を深め、江戸幕府に対して異国船打払令を徹底するよう強く要求した。
3. 薩英戦争に勝利した薩摩藩は、イギリスとの間に日英通商航海条約を独自に締結し、領事裁判権の撤廃を認めさせた。
4. 生麦事件の解決のために下関条約が結ばれ、薩摩藩は多額の賠償金を支払う代わりに、イギリスから最新式の蒸気船を譲り受けた。

問10 1867年に第15代将軍の徳川慶喜が、政権を朝廷に返上する「大政奉還」を行った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。

(2022年 岡山公立入試 類似)

1. 倒幕派による武力行使の口実をなくし、徳川家が参加する形での新たな公議政体によって、引き続き政治の主導権を握ろうとしたため。
2. 戊辰戦争において旧幕府軍が新政府軍に敗北し、降伏の条件として朝廷から政権を譲り渡すよう要求されたため。
3. 全国の藩主から土地と人民を天皇に返還させ、天皇を頂点とした中央集権的な国家体制を直ちに完成させるため。
4. 鎖国体制を維持することが困難になったため、幕府を解体して全ての外交権を朝廷に委ね、外国勢力の排除を求めたため。

問11 幕末の長州藩において松下村塾を主宰し、のちの明治維新を支える多くの人材を育てたものの、幕府の対外政策を批判したために、大老の井伊直弼による「安政の大獄」で処刑された人物は誰ですか。

(2017年 愛媛公立入試 類似)

1. 吉田松陰
2. 高杉晋作
3. 木戸孝允
4. 井伊直弼

答え合わせ・解説

問1	答え 1 イギリスによるアヘンの密輸に対し、清がこれを取り締まったことで戦争が始まり、講和条約によってイギリスは香港の領有と多額の賠償金を得た。	産業革命後のイギリスは、清への茶の代金として支払っていた銀を回収するため、インドで生産したアヘンを清に密輸しました。清が国民の健康と経済を守るためにアヘンの廃棄・取り締まりを強行したことが戦争の直接の引き金となりました。南京条約によって清は多額の賠償金の支払いと香港の割譲を余儀なくされ、アジアにおける欧米列強の影響力が強まる契機となりました。
問2	答え 1 工場の機械化により生産力は飛躍的に向上したが、資本家と労働者の間に大きな格差が生じ、不衛生な住環境や児童労働が深刻な問題となった。	産業革命は人々の生活を便利にしましたが、同時に多くの社会的矛盾を生み出しました。資本家は利益を追求するために労働者を安く長時間働かせ、都市部では急激な人口流入によりスラム化が進むなど、深刻な社会問題が発生しました。こうした状況を解決しようとする動きが、後の社会主義思想や労働立法へとつながっていきます。
問3	答え 1 国内で奴隷制の是非や貿易政策をめぐる対立が激化し、1860年代には南北戦争という大きな内戦が起こった。	アメリカ合衆国が日本へペリーを派遣した時期は、国内で北部と南部の対立が非常に高まっていた時期にあたります。ペリー来航から数年後の1861年には南北戦争が勃発しました。この内戦の影響もあり、アメリカは幕末の日本に対して他国ほど強い軍事的関与を続けることができなくなりました。他の選択肢は、イギリス（アヘン戦争）、フランス（ナポレオン）、ドイツ（ワイマール憲法）に関する記述です。
問4	答え 1 薩英戦争を経て近代化の必要性を感じた薩摩藩は、土佐藩の坂本龍馬らの仲介により、長州藩と薩長同盟を結んだ。	薩摩藩は薩英戦争での敗北から、長州藩は下関戦争での敗北から、それぞれ単独での攘夷が不可能であることを学びました。共通の危機感を持った両藩が、坂本龍馬や中岡慎太郎の仲介によって1866年に薩長同盟を結んだことが、倒幕の決定的な力となりました。土地と人民を朝廷に返還する版奉還は、明治新政府が成立した後の1869年に行われた改革であり、同盟よりも後の出来事です。
問5	答え 1 外国人と日本人との不必要な接触や衝突を避け、管理を容易にするため	幕府は日米修好通商条約に基づき兵庫の開港を約束していましたが、当時の兵庫は物流の拠点で居住者も多く、外国人が入ることで日本人との間で摩擦や衝突が起きることを懸念しました。そのため、人家が少なく居住範囲を限定しやすい隣接地の神戸を「兵庫の一部」として開港することで、外国人との交流を制限し、トラブルを未然に防ごうとしました。
問6	答え 1 イギリス	アメリカが南北戦争の影響で日本への進出を停滞させたのに対し、産業革命を経て強大な経済力を持っていたイギリスは、日本との貿易を活発に進めました。その結果、幕末の日本における最大の貿易相手国はイギリスとなりました。
問7	答え 1 領事裁判権の承認と、関税自主権の欠如	幕末に結ばれたこの条約は、日本にとって一方的に不利な「不平等条約」でした。外国人が日本で犯罪を犯しても日本の法律で裁けない状態を「領事裁判権」の承認（治外法権の認可）といい、自国で輸入商品の税率を自由に決められない状態を「関税自主権の欠如」といいます。これらの回復は明治時代の外交における最重要課題となりました。
問8	答え 1 六波羅探題 → 南北朝の合一 → 禁中並公家諸法度 → 王政復古の大号令	六波羅探題は13世紀（1221年）の承久の乱の後に鎌倉幕府が朝廷の監視のために設置しました。南北朝の合一は14世紀末（1392年）に室町幕府の足利義満によって実現しました。禁中並公家諸法度は17世紀初（1615年）に江戸幕府が制定し、天皇の活動を制限しました。王政復古の大号令は19世紀（1867年）に発せられ、幕府を廃止して天皇中心の政治へと戻ることを宣言しました。
問9	答え 1 薩英戦争が発生したが、この戦いを通じて薩摩藩は武力による攘夷の困難さを痛感し、イギリスへの接近や軍制の近代化へと方針を転換した。	1862年の生麦事件をきっかけに、1863年に薩摩藩とイギリスの間で薩英戦争が勃発しました。薩摩藩はこの戦いでイギリスの圧倒的な軍事力を目の当たりにし、それまでの「攘夷（武力で外国を追い払うこと）」が不可能であることを悟りました。これを機に、薩摩藩は敵対していたイギリスと急接近し、武器の購入や軍隊の近代化を進めることで、後の倒幕運動の中心勢力へと成長していきました。選択肢にある下関戦争は長州藩関わったものであり、下関条約は日清戦争の講和条約です。
問10	答え 1 倒幕派による武力行使の口実をなくし、徳川家が参加する形での新たな公議政体によって、引き続き政治の主導権を握ろうとしたため。	徳川慶喜は、土佐藩などの提案を受け入れ、形式的に政権を朝廷に返すことで、武力討伐を目指していた薩摩・長州藩の機先を制しようとした。これは、内戦を回避すると同時に、有力諸藩の会議の中で徳川家が依然として有力な政治勢力として残ることを狙った高度な政治的戦略でした。戊辰戦争は、大政奉還の後に倒幕派が王政復古の大号令を発し、徳川家を排除しようとしたことから始まります。
問11	答え 1 吉田松陰	長州藩（現在の山口県）出身の思想家である吉田松陰は、松下村塾で伊藤博文や山県有朋などの若者を指導しました。幕府が朝廷の許可を得ずに日米修好通商条約を結んだことを厳しく批判した結果、安政の大獄という弾圧によって処刑されましたが、その思想は弟子たちに引き継がれ、明治維新の原動力となりました。